

# Ja-Net

October 2012 No. 63

季刊ジャネット

Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様の皆様の結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次 2012年10月25日発行

- View from the Other Side ..... 3  
ティダさん一家 (アルバニア共和国)
- あちこち日本語ご紹介(国内編) ..... 4  
福井県福井市
- あちこち日本語ご紹介(海外編) ..... 5  
スペイン マドリッド
- 教材紹介 ..... 6  
『みんなの日本語』  
『留学生のための 時代を読み解く上級日本語第2版』  
『日本語教育叢書「つくる」 作文教材を作る』
- なんでも情報 BOX ..... 8

スリーイーネットワーク

巻頭  
寄稿

## ディスレクシア問題を持つ 日本語学習者に対する支援の必要性

石田 敏子

筑波大学 名誉教授



### 1. ディスレクシアとは

日本語教育において、ディスレクシアはかなり大きな問題ですが、この言葉を聞いたことのない日本語教師も多いと思います。

ディスレクシアとは知的能力は正常にも関わらず、読み書きに困難を示す人たちのことで、学習障害の80%はディスレクシアが占めると考えられています。(上野一彦(2010)『LD(学習障害)とディスレクシア(読み書き障害)』講談社 p.30)。従来は「難読症」と訳されていましたが、現在では「読字障害」「読み書き障害」などと呼ばれています。

ディスレクシアの原因は脳の情報処理にあると説明されています(NHK テレビ番組「病の起源 読字障害 文字が生んだ病気」)。耳からの情報は脳内の聴覚野に伝えられ、次いで言語野に伝えられます。一方、目からの情報は視覚野で形を識別し、左脳の39,40野で音に変換され、言語野で初めて意味を理解します。ディスレクシアの原因は39,40野がうまく働かないため、文字を音の情報に変換できず、その結果、意味につながらないと説明されています。恐らくは遺伝子に関わり、男性に多いそうです。

具体的症状例としては約80%が読み障害で、すらすら文が読めない、語尾を変える、

言いたい語がすぐに出てこない、文字がちょっとぼやける、どこを読んでいるか見失う、文字を混同する(い:こ、さ:ら、ち、う、ろ:る)などがあります。

ディスレクシアには後天性と発達性のものであり、ここでは後者をとりあげます。(後天性=読み書きが完成した成人になってから何らかの障害が起こり、読み書き機能が失われたり、損なわれたりするタイプ。発達性=子供がその発育の中で脳の機能の不具合から読み書きの獲得や習慣に困難を生じるタイプ(上野 前掲書 p.60)。ディスレクシアの人には空間を立体的に把握する特殊な能力を持つ人が多いことは実証的に証明されており、建築家としての成功例の多さが知られています。

私自身が関わった例として、1989年から5年間、毎夏開かれた英国日本研究協会主催の日本語サマースクール(原則として6週間)などでの経験を紹介します。

口頭練習では成績のよかったオックスフォード大の男子学生が文字の導入時に、否定的反応を示したので、理由を聞くと、自分はディスレクシアで英語の読み書きが大変だったので文字は習いたくないということでした。聞く、話すは優れているので、そち

らの面で十分補える可能性があると言及しましたが、結局途中でやめてしまいました。

他に、「ね、れ、ぬ」等、形の紛らわしい文字の鏡文字を書く(更にそれを上下ひっくり返してある文字もありましたがどうやって書いたかは不明)、各漢字の構成要素が入れ違っている、時間をかけているにも関わらず進歩が遅く案じていたところ、本人からディスレクシアであるという申し出があった等々このサマースクールではディスレクシアのいろいろな例が毎年見られました。この人たちの資料を添えて当時在職していた筑波大、母校ICU等の心理学や心身障害学専門の教授達に聞いて回りましたが、日本語にはディスレクシアは現れない、鏡文字を書く子供はいるが、空間を把握する能力が弱く従って消えるという説明を受け、結局、助けは得られませんでした。

### 2. 各言語による出現率や国別支援体制

言語によって出現率が異なり、英語圏では10人に1人、日本では20人に1人程度と言われています。日本語で発生しにくいのは、仮名は一文字が一音に規則的に対応しており、50音の組み合わせで言葉ができて



		誤	正
a. 読み間違い	1	粉を練る	粉を練る
	2	お肉が安いです	お肉が安いです
b. 書き間違い	1 平仮名	軒な	さかな
		めがね	めがね
	2 漢字	粗島 隼	語島 隼
		濁島 隼	濁島 州

ディスレキシアの日本語の例(石井加代子(2004)「読み書きの学習困難(ディスレキシア)への対応策」『科学技術動向』科学技術政策研究所)

いるので、単語中の音を識別するのは難しくなく、日本語はディスレキシアフレンドリーな言語という表現も使われています。英語圏に多いのは英語の綴りと発音との差が大きいことが理由に挙げられています。そのため英語圏では早くから支援対策がとられてきました。フランス語圏にも多く、一番難しいのは、各文字をそれぞれ独立して見分けることで、単語ごとに全部固まって見えてしまうと言ったフランスの日本語学習者もいます。フランスでもかなりきちんとした支援体制が整えられています。

支援体制は国によって異なります。例えば英国では支援体制が大学レベルまで整えられています。アメリカでの支援対象は子供時代だけだそうで、大学生の年齢では自立している傾向が見られます。ディスレキシア問題を抱える学習者は自国と同様の支援を留学先でも求めますので、日本語教育では各国がどのような支援体制を整えているかは無視出来ない問題です。自らディスレキシアであることを明らかにする学習者とどちらかと言えばあまり公にはしたがる学習者もいます。日本語教師はこのようなことも知っておかなければなりません。

### 3. 日本における支援体制の遅れ

日本では2004年に発達障害者支援法が成立し、2005年から施行されるようになってきました。しかし、前述したようにディスレキシアは長年無視され、その存在が正式に認められたのは、この2、3年のことです。現在では、地方自治体が読み書き障害のある学習者支援も行うようになりました。

ディスレキシアの判定には知能検査が使われ、専門家の指導の下で行われています。日本在住の留学生に関しては、各国の大使館が対応しているそうです。

現在では、ウェクスラー式知能検査として成人用(WAIS-III 16-89歳)、生徒用(WISC 7-16歳)、児童用(2歳半-7歳)等が使われています。日本人年少者のためには宇野彰他による『小学生の読み書きスクリーニング検査——発達性読み書き障害(発達性Dyslexia)検出のために』(インテルナ出版2006)があります。

日本語能力試験受験者のためには時間延長、別室受験等の特別受験措置が1994年以降とられており、2006年までに512人の受験者がこの措置を受けています。これを受けるには、国際的に認定されているテストを受験し、自国の関係機関でディスレキシアと判定されていることが条件とされています(上野一彦、大隅敦子(2008)「日本語能力試験における発達性ディスレキシア(読字障害)への特別措置」、『日本語教育紀要』国際交流基金 pp.157-67)。

日本語教育の現場における対応は個々の機関に任せられ、特別な学習支援対策はまだとられていません。ディスレキシアに焦点を絞って行われた研究例はようやく出始めた段階にあります。

### 4. 日本語学習上の困難点

ディスレキシアの日本語学習者にとって難しいのは分かち書きされていない文章の読み、形を混同しやすい文字の読み書き、手がかりとなる記号(濁音、半濁音、促音、フ

リガナ等)の表記が小さいなどが挙げられています。役に立った指導上の配慮としては大きな文字の使用、効果的な色の使用(ただし、一色程度)、むしろ形を変えて差を示す(例:新出文字一丸印、新出文法事項一下線)、音声資料化するなどがあります。学習上の困難点を知るための試みとしては音韻レベルを対象とした例が多く、これは英語圏の問題点を取り扱った先行研究の影響を受けていると思われます。文字、特に漢字の読み書きに関する資料が欠けています。また、ディスレキシア問題を持つ日本語母語話者とやはりディスレキシア問題を持つ第二言語としての日本語学習者間の問題点の比較、同一学習者の母語学習と日本語学習間の問題点の検討等も行われていません。

その他にテスト作成上での留意点として英語圏の一教師から母語による問題文の表記、問題と回答欄の位置、テスト時間、別室受験の手配などが指摘されていますが、これも幅広く情報を集める必要があります。

先日、ある日本語スピーチ大会で「私はディスレキシアです。日本語の先生たちはディスレキシアについて何も知りません。」という衝撃的なスピーチをした学習者がいました。

これまで述べてきたように日本語教育はまさに「ディスレキシア元年」とも言えるような状況にあります。遅すぎた感否めませんが、少なくとも教師養成課程でディスレキシアに関して何を教えるべきかはもう検討しなければならない段階にあると思います。

※2012年度学術研究助成基金助成金(課題番号24652105)を受けて行われた研究に基づきます。

#### 石田敏子(いしだ・としこ)

筑波大学名誉教授  
国際基督教大学大学院修了。  
国際基督教大学、早稲田大学、スタンフォード大学、ハーバード大学、バリ第七大学など国内外の大学で日本語教育に携わる。  
著書に『日本語教授法』『入門日本語テスト法』(いずれも大修館)、『入門書き方の指導法』(アルク)などがあり、訳書にフィリップ・ハリ著『罪なき者の血を流すなかれ』(新地書房)、アーサー・ケストラー『サンバガエルの謎』(岩波現代文庫)などがある。



## 学習者の目

# View from the Other Side

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

## アルバニアと日本をつなぐ辞書

アルバニア大使一家の日本、日本語との関わりについて書いてもらいました。



### ◇レコ・ティダ

成蹊大学アジア太平洋研究センター研究員

1996年に初来日しました。仙台に住んで、日本語の学習を始めました。最初は単に周りになじむためでした。夫は東北大学に留学し、息子は仙台の小学校に通い始めました。息子が初めて勉強し始めた言語が日本語だったので、私もアルバニア語の先生としてアルバニア語を教えていました。そのころ、私は日本語をさらに学ばなければならないと思いました。生活にも慣れてきて、さらに上の日本語を使いたいと感じていました。そして、辞書を作成してみようとそこから思いはじめました。

日本語の勉強をしていると、授業中に出てくる新しい言葉や表現などを辞書で引く必要がありました。当然ながら母国語のアルバニア語で引ける辞書がなかったので、毎回別の言語の辞書を挟みながら勉強をしていました。しかし、この方法だと意味が違ってくるか、正しく伝わらない場合があったので、これらの情報をノートにまとめて資料として役立てていました。当初は日本語から簡単な日本語、そして英語、それからようやくアルバニア語にしていました。息子も小学校で日本語を学んでいたのを助けてくれることもありました。それ以外に、仙台で知り合ったさまざまな人たちからも支援をいただいて私は何とか日本語を勉強していました。

1999年に帰国し、JICAのコーディネーターとして働くと同時に、日本での貴重な経験を無駄にしないためにも、『みんなの日本語』を使用して日本語に興味のある人たちに教えていました。授業は日本で私が直に体験した先生たちの教え方を真似してました。これを続けているうちに私が独自に取っていた直訳のノートは完成し、今度は辞書にしてみようと思いました。

そして今回、大使夫人として来日し、アルバニア語-日本語の辞書を作成したことでようやく私の夢を現実に出来ました。この



### ティダさん一家 アルバニア共和国

1996年、ギャル現アルバニア共和国大使の東北大学大学院留学に際し、家族で来日。3年間宮城県仙台市で暮らす。2009年、ギャル氏の大使就任に伴い、再来日。レコ氏は大使夫人としての活動の傍ら、『日本語-アルバニア語辞書』の制作に励む。2012年発行。96年来日時に小学生だった息子ベサリ氏は現在成蹊大学学生。

辞書の完成により母国と日本がより深い関係になり、双方の会話もはかどることでしょう。外国語を学ぶということは新しい文化や生活に触れることです。それによって人生がより楽しく、より快適になることでしょう。この辞書の作成も私の夢であり、日本語を学んでいるアルバニア人に対する私の義務でもありました。日本とアルバニアの外交関係確立90周年の年にこの辞書が出来たことはとてもめでたいことだと思っています。

### ◇ベサリ・ティダ

成蹊大学学生

私は子供のころ両親が来日したのでついに行くことになりました。仙台の小学校に入学して、初めて勉強した言語が日本語でした。子供だったのでなんとかついていけました。3年後にアルバニアへ帰ることになり、私は日本で使っていた漫画やアニメ、ゲームなど日本語が使用されているものをそのま

ま持ち帰り、アルバニアでもやっていました。そのおかげで子供レベルの日本語を忘れずにいて、次第に上達していきました。

その後本格的に勉強しましたが、基礎ができていたので、それほど苦勞することもなく、能力試験も合格できるレベルになりました。

今回、両親とともに再来日して日本の大学へ入学し、授業も日本語で受けています。しかし、今までは日本語を読む側だったので手書きがとても苦手です。読める漢字なのに、手で書くのは面倒で、特に手書きのレポートは骨が折れます。こういった経験は日本語-アルバニア語の辞書の作成を手伝うのに役立ちました。

### ◇ギャル・ティダ

アルバニア共和国特命全権大使

最初に留学したときには、ローマ大使館からひらがなやカタカナなどといった基礎知識が入っている資料をもらっただけでした。私のように化学を学ぶ者にとっては、とても情報量が不足していました。今まではロシア語や英語などといった言語しか勉強していなかったので日本語の文法は謎だらけでした。

さらに、私が日本語の教室へ通い始めたころには初級がなく、上級の日本語の勉強しかありませんでした。たったの一週間で教科書を消化しただけで、テストがありました。その後は午前が文法で午後が漢字の勉強でした。日本語を勉強するときは記憶力の勝負でした。違う国々の人々が集っていたので、同じ文字もそれぞれ発音が違っていました。そして教科書は日本語と英語を使用しており、日本語の50音では英語の発音がカバーできない部分がありました。しかしアルバニア語の36文字ではそれが可能になっており、それを応用することで何とかできました。この方法を妻にも教えました。彼女は現在その知識を言語学者として初のアルバニア語-日本語辞書に使用しています。





日本語で紹介

国内編

福井県福井市



## 地方の小規模校ならではの 手作りの教育と交流

福井大学留学生センター教授 山中和樹

福井大学には現在、約 200 名の留学生がいます。約 6 割が中国からの留学生ですが、アジア・アフリカ・ヨーロッパ・ラテンアメリカなど出身地は多岐にわたっています。

福井大学の留学生教育のシステムをまず紹介します。日本語ではなく、英語で講義を受けられるコースがあり、これらの学生に対する正規の日本語の授業はありません。これらのコースの学生は少数で、圧倒的多数は日本語による授業を受けています。彼らの日本語教育を担当するのが留学生センターです。

日本語教育システムもちょっと複雑ですが、大きく分けて 2 つに分類できます。留学生センターが主体となってカリキュラムを作成するコースと、共通教育(かつての教養教育)の語学教育の一環としての日本語科目です。どちらもsemester制を採っています。

### 1. 留学生センター開講科目

1コマ90分、14週

1) 短期プログラム(協定校からの1年間の交換留学。単位認定あり)

初級クラス、初中級クラス(週4日×1コマ)

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』

2) 教員研修生コース(現職教員が国費留学生として来日。単位認定あり)

初級クラス(週5日×2コマ)

『みんなの日本語初級Ⅰ』

午後は漢字、会話、作文、日本文化などのクラスが1コマ。

3) 全学向け日本語Ⅰ～Ⅳ(単位認定なし)

Ⅰは初級、Ⅱは初中級、Ⅲは中級前期、Ⅳは中級後期以上(Ⅰ、Ⅱは週5日×1コマ、ⅢとⅣは週4日×1コマ。)

Ⅰは『みんなの日本語初級Ⅰ』、Ⅱは『みんなの日本語初級Ⅱ』。Ⅲ、Ⅳは随時決定。

4) 日本語能力試験対策講座(単位認定なし)  
N-1クラス、N-2クラス(週2×1コマ、模擬試験を含め全30回)

テキストは随時決定。



オリエンテーションパーティ。このパーティからはじまる留学生のつながりは帰国後もネットワーク誌を通じて続きます

### 2. 共通教育科目としての日本語

(原則、学部生対象。単位認定あり。週1コマ、15週。)

- 1) 日本語中級：テキストは随時、決定
- 2) 日本語上級：同上
- 3) 応用日本語：教材には新聞記事やビデオを利用  
前期、後期を通じて2科目ずつ用意。

留学生センター開講の日本語科目は初級と初中級に限定されていますが、日本語能力が中級以上の学生は学部生とともに、共通教育の日本語科目を履修することができます。

なお、共通教育の日本語科目のほかに、「日本事情」、「日本の文化」が留学生向けに開講されていて、留学生センターの日本語教育部門の中で、特に日本文化に造詣の深い教員が主に担当しています。

「日本事情」では、日本の年中行事を紹介するコースの中では、講義だけではなく、福井県立歴史博物館や福井市立郷土歴史博物館へ見学に行ったり、福井大学教員が作成した「越前・若狭いろはかるた」を用いた、かるた大会などを実施したりしています。他のコースでは福井県に関する現状を考察す



1泊2日のキャンプで

ることによって、日本事情に関する知識をはぐくむコースもあります。「日本文化」の授業では、マンガを用いて、日本の四季、家族、社会などについての理解を深めていきます。このほかに、日本人学生と留学生と一緒に受講できる「多文化コミュニケーション」という科目があり、こちらも留学生センターの専任教員が担当しています。学生の出身国の人名の付け方、国旗・国歌、祝祭日、年中行事、将棋やその他のカードゲームなどの伝統的遊戯を互いに紹介することで、異文化に対する理解を深めていきます。

また、同窓会支部も13か所にあり、留学生センターのネットワーク誌である「こころねっと」を通して交流は帰国後も続きます。





日本語ご紹介

海外編  
スペイン

## 日本語教育・ 新興国スペイン

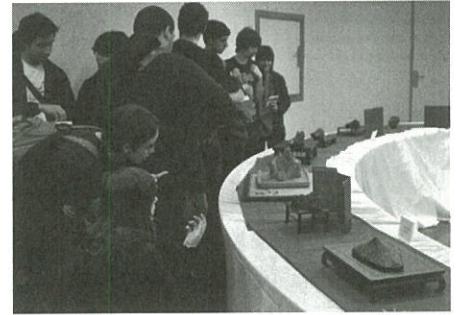
マドリード・アウトノマ大学  
東アジア研究センター助教

高森 絵美(たかもり・えみ)

日本とスペインは、宣教師フランシスコ・ザビエルの到来に始まる460年以上の長い交流の歴史があります。しかしながら、他の欧州諸国に比べて、日本語教育の歴史は浅く、今世紀に入ってようやく体制が整い始めました。もっとも、スペインが民主化したのは20世紀後半の話ですから、一般のスペイン人が海外、ましてやアジアに目を向ける余裕ができるまでに、ある程度時間がかかったのは当然かもしれません。そんな遅咲きのスペインですが、ここ数十年で日本語学習者の受け皿が著しく増え、今後の発展が楽しみな国となっています。

私が勤めている大学では、1993年に日本語が選択科目として正規に認められ、2003年から、マドリードで唯一となる日本研究の学士課程が設立されました。最近では中国語ブームだということも聞きますが、日本文化に対する関心は衰えを知らず、日本研究課程への入学者数は当センターの中国研究を凌ぎ、定員オーバーの状態です。若い学生の関心は、やはりアニメ・漫画、ゲーム、J-POPなどのポップカルチャーに集まる傾向が見られますが、それ以外にも、武道に代表される精神文化、美術、古典文学など日本文化のあらゆる側面が彼らの興味の対象です。ただなんとなく無性に日本が好き、という学生も多く、その情熱はどこから来るのか、教える方が不思議に思うほどです。

このような多岐にわたる関心に応えるため、当センターでは毎年10月に主にヨーロッパで活躍する日本研究家、芸術家を招き、講演会を行っています。今年は、日本画家、マドリード水石協会会長などにお話をお願い



水石を鑑賞する学生たち

いたしました。また、日本語の授業においても、学習者が異文化体験をしながら日本語を習得できるよう工夫しています。日本からの交換留学生を時々授業に招いて、会話の相手や発表のコメントをしてもらったり、お互いの生活スタイルや考え方の相違点について話し合う場を提供したりしています。また、視聴覚教材をできるだけ使用し、初級のうちから実生活で使われる生の日本語を自分の目と耳で確かめてもらっています。

一方、スペインの日本語教育は、大学以外でも盛んに行われています。1975年から日本語を開講している公立語学学校(Escuela Oficial de Idiomas)はもちろんのこと、民間の語学学校や個人教授の現場で多くの日本語教師が活躍しています。そして、これら教師間のネットワークを支えているのが、2010年に設立されたスペイン日本語教師会(<http://apje.es/>)です。ヨーロッパには既に各国、もしくは各地域で教師間の情報交換を促進する組織が存在しますが、スペインでは最近になってこうしたネット

ワーク作りが活発になりました。現在では、100人以上の登録者を抱え、一年に数回のワークショップ、そして、二年に一度シンポジウムを開催しています。今年6月に行われた第二回シンポジウムは、e-learningをテーマに様々な発表、意見交換が行われました。また、教師会誕生と同じ2010年には、国際交流基金マドリード文化センターが設立され、スペインにおける日本語教育発展の一翼を担っています。基金では、ヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference)に準拠した日本語コースが二年目を迎える一方、『みんなの日本語』をどう上手く生かして課題遂行型の授業につなげるか、といった教師会主催のワークショップの後援もしています。

来年は、慶長遣欧使節団派遣400周年を祝う交流事業が両国で開催されます。両国の関係がより一層密なものとなりますように。私たち日本語教師も灯ったばかりの情熱の火に油を注ぐべく、日々奮闘していきます。



好きな映画やドラマを演じてみる口頭表現の授業でパフォーマンスをした学生たち



# 教材紹介

## 『みんなの日本語』初級から中級へ 一直線につながる!

目白大学外国語学部教授

石沢弘子

『みんなの日本語』(1998年)は、技術研修生を対象に出版された『新日本語の基礎』(1990年)を母体として、一般成人対象の初級総合教科書として開発され、国内外の多くの機関で使われ親しまれてきました。

2012年『みんなの日本語』は時代の変化に伴う学習ニーズに応えるべく、初級Ⅰ・Ⅱを改訂し、中級Ⅰ(2008年)に続き中級Ⅱを出版し、一直線につながりました。つながった最大のメリットは、日本語学習の目標・内容・方法・評価が明確になること、カリキュラムの連続性により無駄なく無理なく効果的に日本語力の向上がめざせることです。

『みんなの日本語』はコミュニケーションの4技能「話す・聞く・読む・書く」を初級から中級まで優先順位を変えながら伸ばすことを目標としています。特に初級では「話す・聞く」に重点を置き、型を徹底的に学ぶことを通して実践的会話能力を身につけることをめざします。中級からは学習

者の興味関心のあるテーマを取り上げ、自ら考え学ぶ姿勢を育て、人々と交渉し交流しながら、積極的に発信していく日本語力を目標としています。

『みんなの日本語』は本冊と『翻訳・文法解説 各国語版』が別冊になっています。これは日本語を日本語で考える習慣を身につけるためです。初級だけでなく中級レベルも多言語展開され、技能別周辺教材や視聴覚教材も順次ラインアップされるとのことで、学びやすく教えやすいシリーズになると期待されます。

さて、『みんなの日本語上級』は? という話になりそうですが、中級Ⅱレベルまで終了すれば、どんな専門分野の日本語学習にも進める基礎力と実力が備わります。以後は実際の現場に即した『それぞれの日本語』が現実的教材として利用できるのではないのでしょうか。

### 『みんなの日本語』シリーズラインナップ

価格はすべて税込です

※『初級第2版』は2012年8月に★のついている8冊を発行いたしました。それ以外は順次発行予定です。『中級』についてはすべて既刊です。

#### 『みんなの日本語初級Ⅰ第2版』

★本冊 CD付	2,625円
本冊 ローマ字版 CD付	2,625円
★標準問題集	945円
★書いて覚える文型練習帳	1,365円
★漢字練習帳	945円
★導入・練習イラスト集	2,310円
★絵教材 CD-ROM	3,150円
漢字 英語版	1,890円(予価)
聴解タスク 25	2,100円(予価)
初級で読めるトピック 25	1,470円(予価)
教え方の手引き	2,940円(予価)
★翻訳・文法解説 英語版	2,100円
★翻訳・文法解説 中国語版	2,100円
翻訳・文法解説 韓国語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ポルトガル語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 スペイン語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ロシア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ドイツ語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 フランス語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 イタリア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 タイ語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 インドネシア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ベトナム語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ローマ字版(英語)	2,100円(予価)

#### 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版』

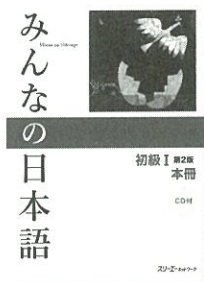
本冊 CD付	2,625円(予価)
標準問題集	945円(予価)
書いて覚える文型練習帳	1,365円(予価)
漢字練習帳	1,260円(予価)
導入・練習イラスト集	2,310円(予価)
絵教材 CD-ROM	3,150円(予価)
漢字 英語版	1,890円(予価)
聴解タスク 25	2,100円(予価)
初級で読めるトピック 25	1,470円(予価)
教え方の手引き	2,940円(予価)
翻訳・文法解説 英語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 中国語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 韓国語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ポルトガル語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 スペイン語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ロシア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ドイツ語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 フランス語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 イタリア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 タイ語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 インドネシア語版	2,100円(予価)
翻訳・文法解説 ベトナム語版	2,100円(予価)

#### 『みんなの日本語中級Ⅰ』

本冊	2,940円
標準問題集	945円
翻訳・文法解説 英語版	1,680円
翻訳・文法解説 中国語版	1,680円
翻訳・文法解説 韓国語版	1,680円
翻訳・文法解説 ポルトガル語版	1,680円
翻訳・文法解説 スペイン語版	1,680円
翻訳・文法解説 ドイツ語版	1,680円
翻訳・文法解説 フランス語版	1,680円
教え方の手引き	2,625円

#### 『みんなの日本語中級Ⅱ』

本冊	2,940円
----	--------



みんなの日本語 初級 第2版 やさしい作文 1,260円(予価)

現時点では第2版発行後も初版『みんなの日本語 初級』シリーズは継続して販売しています。ご注文の際は、初版か第2版かを明記してください。 [お問合せ] 営業広報部: 03-5275-2722 sales@3anet.co.jp

※ 以上は2012年10月25日現在の情報です。



## 留学生のための 時代を読み解く上級日本語 第2版

B5判 274頁 2,100円  
宮原彬 編著



### 読解を通して現代の日本を知る

佐世保工業高等専門学校非常勤講師  
宮原 彬

本書は、『留学生のための時代を読み解く上級日本語』(2006年3月発行)の改訂版です。本書の大きな特徴は、学習者の興味・関心やコースの状況(目的、時間数など)に応じてどのようにでも使えるところにあります。26課構成で、本文の内容により、「生活」「少子高齢社会」「教育」「企業と労働」「科学技術と人間」「自然環境・科学技術と人間社会—東日本大震災—」に分類されていますが、授業では、それらを取捨選択し、また、順序も入れ替えて、自由に扱うことができます。

各課では、本文に沿って「漢字の読み方」「語句の使い方」を学習し「話す練習」「書く練習」をすることができますが、それらの一部ないしは全部を省略して使うこともできます。

各課の本文は、初版のものをすべて入れ替え、できるだけ現在の日本社会を反映したものにしました(すべて2007年以降に書かれた文章です)。現在の日本社会にとって大変重い課題である東日本大震災と原発事故に関する文章も学習者の母国でも関心の高いテーマと考え、あえて載せました。文章は、初版同様、『日本経済新聞』から多くを採りましたが、出典の範囲は初版より広がっています。

初版について多くの方からご意見をいただきました。各本文の選択に当たっては、そうしたご意見も考慮しました。また、巻末の「語句の用例」(辞書形式で見出し語と文例を配列)では、同一の語句に意味・用法の違いがある場合、その違いが分かるように文例を分類して提示しました。これもご意見に添った試みです。あくまで便宜的な分類ですが、初版より使いやすくなったと思います。

本書によって、国内外の学習者が日本社会の現状について知識を広げ母国の状況についても思いを巡らしながら、日本語の学習に楽しく取り組むことができれば、と期待しています。

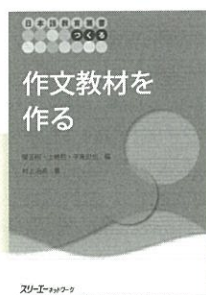
#### 〈各課タイトル例〉

##### I 生活

- 働く女性、「なでしこ」に続け
- 遠距離結婚
- 未婚の男性が急増
- 一人暮らしを心配する、学生の親たち
- 生活音トラブル

## 日本語教育叢書「つくる」 作文教材を作る

B5判 208頁 1,890円  
関正昭・土岐哲・平高史也 編 村上治美 著



### 「作文教育とは何か」から 作文教材を考える

東海大学国際教育センター教授  
村上治美

『作文教材を作る』は、拙著『日本語中級表現—アカデミック・ジャパニーズの基礎』(東海大学出版会)と、そのあとに続く学部の日本語表現の授業で使用する表現教材を作成した際の様々なできごとを中心に、作文教材を作るとはどういうことか、また、作った教材をどのように使い、フィードバックしたらいいかという試行錯誤を綴ったものです。

作文教材は初級作文教材、中級作文教材、上級レポートの書き方教材のように単発で存在するのではなく、「レポートを書く」という

最終目標から考えた各レベルのシラバスを核に、初級から少しずつ積み上げていくことが理想だと考えています。そのためこの『作文教材を作る』では最終目標をレポートの作成においた作文教材を主に扱っています。

本書の特色は「作文を書くということ」を「表現」と幅広くとらえ、アカデミック・ジャパニーズにおける表現力養成のためには文章表現力と口頭表現力の二本の柱を同時に鍛えていくと効率がよいと考えて、そのための実践例を紹介していることです。よって「作文」というよりは「話し方」に属する「プレゼンテーション」や「ディベート」などの活動の紹介もあり、またそこからどのように文章表

現活動に導けるかを提示しました。

失敗や途中でとん挫した事例など、10年近くになる悪戦苦闘の歴史は公にするには恥ずかしい部分もあります。しかし、「教科書・教材の作成のプロセスを知ることは、新たな教材開発のプロジェクトにも役に立つに違いありません」という編者の言葉に励まされ出版にこぎつけました。本書が教材作成の一助となることを願うばかりです。

#### 第1章 作る前に

- 第1節 作文教科書の現状と新規教科書開発の必要性
- 第2節 作文教育とニーズ
- 第3節 作文教材開発に着手する前にしなければならないこと
- 第4節 作業にとりかかる前に

#### 第2章 作る

- 第1節 『日本語中級表現』の構成について
- 第2節 『日本語中級表現』の作成と指導について
- 第3節 上級用アカデミック・ジャパニーズ表現教材を作る

#### 第3章 作った後で

- 第1節 『日本語中級表現』を作った後で
- 第2節 『日本語1』を作った後で
- 第3節 教科書を作った後で





# なんでも情報 BOX

## Seminars セミナー

### ① 地域で活動する日本語ボランティアのための研修会 in 岡山

日 時：11月17日(土) 13:00～16:25 (受付 12:00)  
 会 場：岡山コンベンションセンター2階展示ホール  
 定 員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)  
 参加費：無料  
 問合せ/申込み先：凡人社営業部(担当：坂井)  
 お名前、連絡先、ご所属を明記の上、お申込みください。  
 TEL：03-3263-3959 FAX：03-3263-3116  
 E-mail：ksakai@bonjinsha.co.jp

主 催：アルク・スリーエーネットワーク・凡人社  
 ●内容/スケジュール(予定)  
 13:00 研修会1「『できること』を重視して、楽しい漢字学習を！」 嶋田和子(一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)  
 14:00 休憩  
 14:10 研修会2「問題に取り組みながら『使える』喜びを生む日本語能力試験対策」坂本勝信(浜松大学准教授)  
 15:10 休憩  
 15:25 研修会3「地域の日本語学習者と支援者が共に楽しく学習するために」宿谷和子(にほんごの会 会員、杉並でくらす外国人のためのにほんご教室担当講師、『いつばにほんごさんぽ 暮らしのにほんご教室 初級2』『同初級1』著者)  
 \* 当日、各研修の題材書籍や日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定での割り引きあり！  
 \* 内容/スケジュールは変更の場合もございます。

### ② ICAS (アイカス) 25周年記念公開研修会 考えよう! 『みんなの日本語中級II』

ワークショップを交えて『みんなの日本語中級II』を理解し、効果的な使い方をみんなで考えてみたいと思います。

講師(予定)：関正昭、鶴尾能子、茂木真理(『みんなの日本語中級』執筆協力者)  
 日 時：11月10日(土) 13:00～16:30 (受付 12:30)  
 講義・ワークショップ 13:00～15:30  
 交流会 15:30～16:30  
 会 場：仙台国際センター  
 定 員：70名(先着順。定員になり次第、締め切ります。)  
 参加費：無料  
 問合せ/申込み先：スリーエーネットワーク講座係  
 TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729  
 E-Mail：kouza@3anet.co.jp  
 協 力：丸善仙台アエル店  
 主 催：NPO 国際都市仙台を支える市民の会(アイカス)  
 仙台国際交流協会・スリーエーネットワーク  
 ※ 当日は書籍の販売もあります。

# Books ほん

すべて税込価格です

改訂版例文と言葉で学ぶ漢字 N2	10月発行	1,890円
日本語教育叢書「つくる」作文教材を作る	10月発行	1,890円
留学生のための時代を読み解く上級日本語第2版	11月発行予定	2,100円
みんなの日本語初級I 第2版 翻訳・文法解説 ポルトガル語版	11月発行予定	2,100円
みんなの日本語初級I 第2版 翻訳・文法解説 スペイン語版	12月発行予定	2,100円
みんなの日本語中級II 翻訳・文法解説 英語版	10月発行	1,890円
みんなの日本語中級II 翻訳・文法解説 中国語版	12月発行予定	1,890円

### ③九州日本語教育連絡協議会 2012年度12月 研修会

「協働の学びの場を創る—テキストを協働で読む」  
 「読解」と呼ばれる授業は、テキストの読解に陥ったり表面的な理解活動で終わったりすることが少なくありません。本研修では、「協働」をキーワードに、教室で学習者同士が協働してテキストを読むという活動を通して、教室で読むことの意義を考えます。  
 具体的には、参加者自らがテキストを協働で読むという体験をすることによって、テキスト理解、他者理解、自己理解を深めるということについて検討します。そのうえで、協働で読む授業をどのようにデザインするかをみなさんといっしょに考えたいと思います。

講 師：館岡洋子(早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)  
 日 時：12月1日(土) 13:00～17:00 (受付開始：12:30)  
 会 場：福岡大学 七隈キャンパス A 813 教室  
 参加費：1,000円(当日納入)  
 \* 会員や学生の割引はありません。  
 定 員：72名(先着順。定員になり次第締め切ります。)  
 問合せ/申込み先：九州大学留学生センター小山研究室  
 (E-mail: koyama@isc.kyushu-u.ac.jp)  
 \* 受付が完了次第、返信致します。3日経っても返信がない場合は、研究室に直接お電話ください(092-642-2155)。不在の場合は、留守番電話に「お名前、連絡先」をを残してください。

主 催：九州日本語教育連絡協議会  
 共 催：スリーエーネットワーク  
 ●内容/スケジュール(予定)  
 ・「ピア・リーディング」の紹介  
 ・学習者体験  
 ・事例紹介  
 ・参加者によるディスカッション  
 (途中、20分程度の休憩をはさみます)

### ④地域で活動する日本語ボランティアのための 研修会 in 新宿

日 時：2013年1月19日(土) 13:30～16:55 (受付 13:00) \*講演終了後、17:00～18:00 情報交換会を予定しています。  
 会 場：新宿文化センター3階小ホール  
 定 員：200名(先着順。定員になり次第締め切ります。)  
 参加費：無料  
 問合せ/申込み先：  
 公益財団法人新宿未来創造財団 文化交流課  
 氏名、電話番号、グループで活動中の方はグループ名を明記してください。  
 〒160-0022 新宿区新宿 6-14-1 新宿文化センター内

TEL：03-3350-1141 FAX：03-3350-4839  
 E-mail：bunka@regasu-shinjuku.or.jp  
 主 催：公益財団法人新宿未来創造財団  
 協 力：アルク・スリーエーネットワーク・凡人社  
 ●内容/スケジュール(予定)  
 13:30 研修会1「授業を豊かにするために ～楽しく効果的な授業の広げ方」 鈴木英子((財)宮城県国際交流協会日本語講師、『はじめての授業キット』著者)  
 14:30 休憩  
 14:40 研修会2「外国人児童への『かんじ』の教え方～『かんじ だいすき』を使って」公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)  
 15:40 休憩  
 15:55 研修会3「シャドーイングによる効果的な発音指導の方法」 大久保雅子(早稲田大学日本語教育研究センター、『シャドーイングで日本語発音レッスン』著者)  
 \* 講演終了後、17:00～18:00には日本語ボランティア同士の交流と情報交換会を予定しております。  
 \* 当日、各研修の題材書籍や日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定での割り引きあり！  
 \* 内容/スケジュールは変更の場合もございます。

## Ja-Net No. 63 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2012年10月25日発行  
 ●発行人 小林卓爾  
 ●発行所 (株)スリーエーネットワーク  
 営業広報部 Ja-Net 編集室  
 〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4  
 トラストビル 2F  
 TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729  
 E-mail: sales@3anet.co.jp  
 http://www.3anet.co.jp/  
 ●印刷 日本印刷(株)  
 © 2012 by 3A Corporation Printed in Japan  
 (禁無断転載)

● 当社は2011年11月28日より、上記住所へ移転いたしました。  
 ● 『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第64号は2013年1月25日発行です。